

はじめに

平成 23 年 3 月

共同研究会代表 酒巻 和子

この共同研究会は、本学が平成 20 年度に受けた第三者評価の訪問調査の後、二見修次学長からその経過説明を受けた会議がきっかけとなって始まりました。改めて短期大学の教育研究活動を振り返り、併設大学とは異なる特色ある教育内容について考える機会をもつべきではないか、という意識が高まったのです。日頃、部会・分科会を中心として大学や大学院を含めた教育研究活動を行うことも多い短期大学の専任教員は、短期大学の教育充実のために定期的に会議をもちました。そして平成 21 年度から 2 年間を研究期間とする共同研究を正式に申請し、承認されたのです。

部会・分科会の枠を超えた研究会は、まず情報を交換し共有することにより現状を把握し、問題を共有しました。そして浮かび上がった課題から、教育方法の改善に向けて各教員ができることは何か、それぞれの立場で考えました。個人あるいはグループでテーマを設定し、教育力を向上させることにつながる研究をしました。また全員で意見を交わしながら短期大学のカリキュラム検討をしました。さらに、本学における実技教育の歴史を考える中で、本学創立者である下八川圭祐先生の教育理念を確認するために、直接先生のご指導を受け、その教えを受け継いでいらっしゃる方々のお話をうかがうことにしました。1 年目は、現在本学で後進の指導にあたっている先生方にご協力いただき、聞き取りを実施しました。2 年目は、合唱や指揮の分野で長く本学のオペラ公演を支えていらっしゃる及川先生と星出先生のお話をうかがいました。オペラの実践に情熱を注がれた下八川圭祐先生の教育は、今、短期大学創設 40 年を経て、本学の教育に生き続けていることを確認することができました。

この『報告書』は、2 年間の共同研究の成果を、構成員がそれぞれのテーマにしたがってまとめたものです。短期大学全体の教育力および教育内容の向上への方策は決して完結するものではなく、常に新たな課題と向き合うことになると思われます。教員一同は、今後も協力して昭和音楽大学短期大学部の教育活動がますます充実発展するよう、気持ちを新たにしています。